

水稲早期栽培の労力配分について

肥 後 直*・宮ヶ原幸男*

HIGO, S., and MIYAGAHARA S. Labour Distribution
in the Early Sowing System of Paddy Rice.

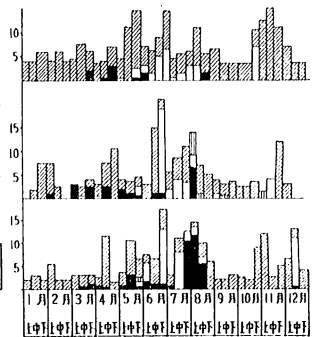
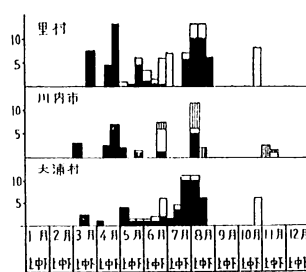
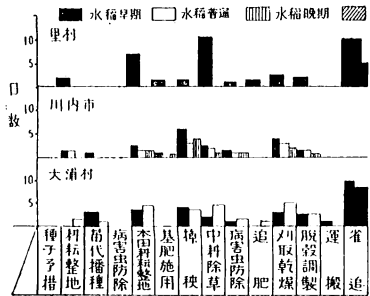
鹿児島県においては水稲早期栽培を昭和 28 年から積極的に取上げてきたが、昭和 31 年現在において早期栽培面積 7,000 町歩(大島郡を含む)に達している。しかしながら地域的条件の相違により労働の量的、質的面にかなりの特徴があり、さらには経営的面にもそ

れぞれ特徴がみられる。この調査は薩摩郡里村をはじめ、川内市、川辺郡大浦村の 3ヶ所において行つたもので、各々自然的、社会経済的条件を異にしている。農作業労働としての性格

第 1 図 作業別反当所要労力

第 2 図 月別旬別水稲作労力配分図

第 3 図 月別旬別農業労働配分図



* 鹿児島県農業試験場

以上の図からして今後里村は単なる災害回避ではなく、積極的に飼肥料作物なり、蔬菜類を導入しようとする農家のあることは注目してよい。雀害防止には相当の労力を要しているが、集団栽培によつてある程度軽減されるであろう。

川内市は場所により蕎麦を栽培しているが7月中下旬の蕎麦刈取りと、水稻早期栽培の収穫と労力的競合関係をもっている、また8月上旬における畑作管理作業労力如何が二期作の栽培面積を支配する制限要素であるように思われる。大浦村は第3図で示す通り、労働のピークは4月中旬、5月中旬、6月下旬、7月中旬～8月中旬、10月中旬～11月上旬、12月上旬の6回に

亘っているが、直接早期栽培に関係するのは5月中旬、6月下旬と7～8月だけである。この時期は労働の量においてかなりの重みをもっているが、7～8月は好天候の続く時期で作業は比較的スムーズに進捗する。問題は4月中旬～5月中旬にいたる1ヶ月が一番茶の収穫と麦の刈取り、脱穀、早期栽培の整地、田植等の作業が連続している。

結言 以上は調査対象地が各々異つた自然的、社会経済条件のもとで農業が行われている関係上、必ずしも同じ労働の量的・質的傾向は見出せない。結局、早期栽培は経営形態如何が重要な関連性をもつといえよう。